

国語科

中西 果織・岡本 恵里香

1 国語科の基本的な考え方

本年度の広島大学附属東雲小中学校（以下、「本校」と記す）の研究主題は、「共に生きることを学ぶ教科等の授業づくりー 自他を尊重し、共に高め合う子供の育成をめざして」である。言うまでもなく、私たち教師は学校という集団社会において児童生徒に「共に生きる」ことを気付かせ、他者の気持ちを考えさせ、良い振る舞いや伝え方などを示している。教科の時間もその他の場面でも、より良い人間関係を構築し未来に生きる考え方の軸が育つように、教科教育と人間教育の両方を行っている。その一方で、福田は「学校は同化の論理と排除の論理が絡み合う場として考えられてきました。」（インクルーシブ授業研究会 2015, P98）と述べており、教室では同化と排除が起こりやすいことは言うまでもない。現実社会では「多様性を認めよう」という雰囲気はあるものの、自分と異なる考え、立場や世代の人を排除したり隔絶したりするような言説も目にする。あたかも自分の考えや自分が良いと思ったものだけが正解であり、そうでないものは間違いだと断言するような寛容性の乏しい人、社会もある。「同化と排除の理論に基づいた現在の社会情勢を乗り越えていく知性とちからを育み、既存の社会に由来するものとは異なる、オルタナティブ（＝もう一つ別の）社会に生きる経験を子どもたちに少しずつでも蓄積させることが焦眉の課題」だと、前出の福田は述べている。VUCA と呼ばれる予測不可能な現代において、自分の考えや正しさとの「違い」を排除するのではなく、その「違い」を受け入れられずとも受け止め、自己のより良い考えの形成や他者との調整へと昇華させる基盤を学校の中で育むことは重要だと考える。

本研究における「共生社会」は、「誰一人取り残されず、自他が尊重され、共に高め合うことができる社会（学校）」と定義している。「誰一人取り残されない学校」の実現は様々な要因で難しく感じる人もいるだろうが、「誰一人取り残さない授業」をめざすことは全ての教員にできるはずだ。また、本校がめざす子供の姿は、「自他を尊重し、共に高め合う子供」である。その土台として、まず「自分の存在を無条件に肯定される経験」を日々の授業や学校生活の中で全員が体験すること、言い換えると、教師がまず児童生徒を無条件に肯定する姿勢が欠かせない。その上で、学習者同士の「無条件に互いの存在を肯定し合う、まさに互いに歓待し合う経験を確かに積み上げていくこと」によって、「自他を尊重し、共に高め合う子供」の姿があらわれると考える。

広島大学附属東雲小学校・中学校国語科（以下、「国語科」と記す）では、「言葉の力」を「言葉で表されたものから知ったことや感じたことをもとに、自己や社会のより良いあり方について考え、言葉で表現し伝え合うことができる力」と考えている。特に、語彙力、読解力、表現力を以下のように示す。

語彙力：豊かな語彙とその概念をもち、他者の発した言葉を正しく理解する力。また、言葉を選んで自己の考えに適切な言葉を選んで表現する力。

読解力：書かれた内容や主題を見つけるだけでなく、テキストに表れた表現に内在する書き手、話し手の想いを読む力。

表現力：自分の考えとは異なる他者を慮りながら、自己の考えを分かりやすく伝える力。

子供が発した言葉は、本当にその子の腹の中の考えがあるのか。教科書の大事そうな言葉を継ぎ接ぎした、表面的な言葉ではないか。「教室」という場で、こう答えた方が良いという「いい子性」が働いた言葉ではないか。子供の表情や教室の雰囲気によって、問わずにいられない時がある。「言葉を育てる」とは、能記としての語彙・言葉も、所記にあたる心・考えも、双方を豊かに育むことではないかと考える。

また、「言葉」は自己を内省する際にも使うが、多くは他者とのコミュニケーションの際にその威力を発揮する。ここで言う「他者とのコミュニケーション」とは、実際に対面し声をかけ合う人だけでなく、テキストというメディアを通して 1000 年、2000 年以上前に生きた人物との対話も含んでいる。「言葉」によるコミュニケーションをする時、私たちは場所や時間そして価値観を共有する人だけでなく様々な形の他者と出会う。そしてその他者の考えは自己の考えと同じ場合もあれば、異なる場合も多い。

「言葉を育てる」ことを目的にした国語科の授業では、「言葉」を通して自分の考えとは異なる他者と出会い、それぞれの考え方を尊重しながら自己の考えをより深め「言葉」で表現する学習者の姿勢を育むこと、それは学習基盤として何よりも重要なのではないだろうか。どんなに深い教材研究があっても、理論に基づいた単元の構成であっても、興味をもちやすい言語活動であっても、優れた教師が実践しても、この学習者の基盤なしには、表面的な学び、受身の学びになってしまうのではないだろうか。そしてこれは、「多様性が大事」とキャッチコピーのように覚えさせるのではなく、児童・生徒が「自分が考えもしなかった意見を知ることができた。」「自分はこうは考えないけど、〇〇さんの意見も一理ある。」「自分の意見も分かってもらえた。」という感覚や経験を積むことによって得られるものだと考える。この目に見えない、数値化できない基盤があるからこそ、目に見えやすく数値化しやすい部分、いわゆる〇〇力と言われるものが積み重なるのではないか。

国語科でめざす子供の姿（中学卒業時）	国語科の授業づくりの特徴
他者の考えや存在を受け止め、自己の考えを言語化して表現したり深めたりする子供	・一人読みを深めテキストの空白を補うための、ゆさぶり発問、問いかけや学習活動の存在。 ・多様な考えをもつ他者との出会い。 ・自分の考えを交流する場の設定。 ・他者との交流によって、自己の考えの変容を自覚できるような手立て。

2 研究の目的

国語科は昨年度まで、自分と向き合い豊かに言葉を紡ぎ出す「文学の読み」の授業づくり-「国語科本来の魅力」に迫るための「教師の資質能力」に着目して-と、題した授業研究を3年間行った。その中で学習者には、自分と異なる他者の意見も受容的に聞き、さらに自分の意見をより良いものにしようとする姿。「〇〇さんと同じで～。」「他にも意見があります。」と発表したり、個人の活動でもグループの人と相談しながらワークシートやタブレットへ記入したりと、他者と関わりながら自己の考えを活発に表出する姿があった。学習者の考えを基にした教師のファシリテートによる内容の構造化や発問による整理を即時に行うこと。また、対立する意見が出た際の受容的なフィードバックを行い、個人の意見の根拠になる本文の箇所や人の体験などを示すことを促すことを、有効な手立てとして挙げた。以上は、昨年度までの学校全体の研究テーマ「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力ー教科等の特性に応じた児童・生徒の見取りを通してー」を踏まえ、教師の資質能力を「授業構想力」「授業実践力」「授業分析・評価力」の三つの観点から捉えて分析した結果、明らかになった内容である。

しかし、児童・生徒の学びを支えているのは、教師だけでなくクラスで共に学び意見を交流する仲間である。クラスメイトとの学び、交流によって、どのように学習者の学びが深まったか、昨年度までは明らかにできていない。また、受容的に聞いたり、他者と相談しながら学んだりする姿は、教室が心理的に安全な場であるためだと考えるが、そのための教師の手立てを具体的にできていない点が課題であ

る。

以上のような考えのもと、本年度の研究テーマを次のように設定した。

「言葉を育てる」国語科の授業づくり
— 他者と出会い、「共に生きる」学びの基盤 —

本年度は「「言葉を育てる」国語科の授業づくり— 他者と出会い、「共に生きる」学びの基盤 —」の研究の初年度となる。

本研究では「誰一人取り残さない授業」をつくるための具体的な方法と、「自分の存在を無条件に肯定される経験」を国語の授業でどのように実現できるかを示したい。

3 研究の方法

- (1)日頃の授業から、「自他を尊重し、共に高め合う子供」の姿の具体を見取り，教師と学習者，学習者同士の関わりを分析する。
- (2)他者と出会い，「共に生きる」学びの基盤づくりを意識した授業づくりを行い，研究会で実践を公開する。
- (3)研究授業の单元末の学習者の姿や成果物から，どのような学習活動や他者との関わり，教師の働きかけが有効であったかを検討する。

【引用・参考文献】

- インクルーシブ授業研究会 (2015)『インクルーシブ授業をつくる：すべての子どもが豊かに学ぶ授業の方法』ミネルヴァ書房
- 原田大介 (2022)『インクルーシブな国語科教育入門』明治図書出版
- 原田大介 (2017)『インクルーシブな国語科授業づくり —発達障害のある子どもたちとつくるアクティブ・ラーニング』明治図書出版
- 高原 隼希 (2025)『学びのGOAL UDLで学びを舵取りできる子どもを育てる』明治図書出版
- 甲斐雄一郎・間瀬茂夫(2021)『新・教育課程演習第16巻 中等国語科教育』共同出版
- 山元隆春 (2014)『読者反応を核とした「読解力」育成の足場づくり』溪水社
- 山元隆春 (2024)「国語教育と読むこと〔文学〕の学習指導」『教育科学国語教育 2024 年 12 月号』明治図書出版
- 難波博孝・三原市立三原小学校 (2007)『文学体験と対話による国語科授業づくり』明治図書
- 川上 康則編著 (2023)『不適切な関わりを予防する 教室「安全基地」化計画』東洋館出版社
- ネットワーク編集委員会 (2024)『揃わない前提の授業とクラス (授業づくりネットワーク No.47)』学事出版